



耳をすませば...



学校の校門に入って坂を上ると、目の前に河津桜が鮮やかな色で咲き誇っています。ついこの間まできれいに咲いていた武道館前の梅の花は、もう花の盛りを過ぎてしまいました。明日で2月が終わり、来週からはいよいよ年度最後の月である3月を迎えます。

学校は子どもが主人公です。いろいろ体験する中でいろいろなことを学び、たくさん失敗してたくさんやり直して、いっぱい笑ってちょっぴり泣いて…。大人になって振り返ってみても、中学時代の思い出はかけがえのない大切なものです。あの頃は自分に自信がなくて、不安で仕方がなかったことも確かです。不安定でわがままで、甘ったれで自意識過剰だった中学生の頃を思い出すと、恥ずかしくて仕方がなくなることもあります。それでも、あの頃があったからこそ今の自分があることは、間違いありません。そう考えると、昔も今も中学生の中身はあまり変わっていないのではないかと思います。

先日、給食の調理員さん達とお話をする機会がありました。今年は、年度の後半になるにつれて、配膳の時「こんにちは!」としっかり挨拶して受け取っていく生徒が多くなって、「大盛りお願いします!」だけではなく「いただきます」「ごちそうさま」の声も増えてきたそうです。その話をしたときの調理員さん達の顔は、満面の笑みで本当に嬉しそうでした。その笑顔は、子ども達が自分の「気持ち」を「言葉」にし、それが調理員さん達一人一人の「心」に届いた結果なのでしょう。

その一方で、地域の方から登下校の仕方についての苦情の電話をいただくこともあります。いいときもあれば、悪いときもある。素直なときもあれば屁理屈ばかりでどうしようもないときもある。褒められるのが嬉しいくせに褒められるなんていやだったりもする。何ともへそ曲がりな素直じゃない中学生。でも思い返せば私たちもそんな時期を過ごしてきました。

3月は学校では1年間のまとめとなる大切な時期です。今年度最後の一カ月、もうすぐ卒業式を迎える3年生も、それぞれ進級を控えた1・2年生も、船橋中学校でかけがえのない日々を過ごせるように見守っていきたい。…そう思っていたのですが、昨日の夜、新型コロナウイルス感染症対策で急遽全国の学校が休校措置となることとなりました。あまりに突然のことで、子ども達も動揺していることと思います。これまで、感染拡大を防ぐための対応をとりながら教育活動を継続していく方向で考えていましたが、残念ながら「休校」という形になりましたので、今後の対応については別紙プリント「新型コロナウイルス感染症に伴う対応について」をご覧くださいと思います。この内容については、保護者向けの一斉配信メール、及びホームページにおいてもお知らせいたします。

耳をすませば今も教室から子ども達の声が聞こえてきます。来週火曜日に予定していた「3年生を送る会」に向けて練習してきた成果を3年生に届けられなくなってしまったのも残念ですが、卒業式を例年通りの形で行えないことも残念でなりません。学校は子ども達がいてこそ学校です。一日も早く学校に子ども達の笑顔が戻ってくることを祈っています。